

「ラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ （2024年1月9日放送分・東二番丁／青葉通）

毎月第1火曜日に放送していますが、今月は第2火曜日に放送。歴史家で街歩きの達人・ラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 年も改まり「城下町ボヤージュ」のコーナーも5年目に突入！いよいよ新シリーズ「東番丁を行く！」の旅がスタートです。
- 私と木村さんは、定禪寺通のグリーンベルト東端で待ち合わせ。ここに、以前も紹介した「東一番丁／定禪寺通」の辻標があります。
- <https://www.tbc-sendai.co.jp/02radio/rkibun/burakimura/20220301.pdf>
- 東一番丁とは、奥州街道から数えて東に1本目の街という意味でした。ここから東番丁街区を東にたどって行くのが「城下町ボヤージュ」の新シリーズです。東一番丁の次＝東二番丁の辻標は青葉通との交差点にあるので、私達は東二番丁の大通り沿いを南下することにしました。コーナーの鉄則「大通りを見たら戦後と思え」でしたね。東二番丁もかつては幅5mほどの小道でした。

■ ランドマークとしてまず目に入るのは、仙台タワービルです。21階建ての建物は1985年の竣工当時、仙台で最も高いビルでした。かつてこの場所には仙台市立病院があり、さらにその仙台市立病院が1930年に診療を開始する前は、地方裁判所・区裁判所があったんですよ。また東二番丁沿いでは、広瀬通に近い場所に石碑が残る日本初の公開図書館「青柳文庫」も、特筆すべき史跡です。

〈文・佐々木淳吾〉



■ 「東二番丁／青葉通」の辻標があるのは、交差点の南西角。青葉通という道路は、実は戦前までまったくありませんでした。ここには江戸時代は侍の街区、明治以降は宅地が広がっていたのです。1945年の仙台空襲で焼失した後、自動車社会の到来を見越して戦後の復興計画の一環として造られた高規格道路が青葉通です。青葉通という名前は、市民による公募で最も投票の多かった名前。焼け野原となった杜の都。その復興への願いが込められた通りなのです。

